

世界が進むチカラになる。



経済調査

欧州景気概況(2026年1月)

2026年1月7日

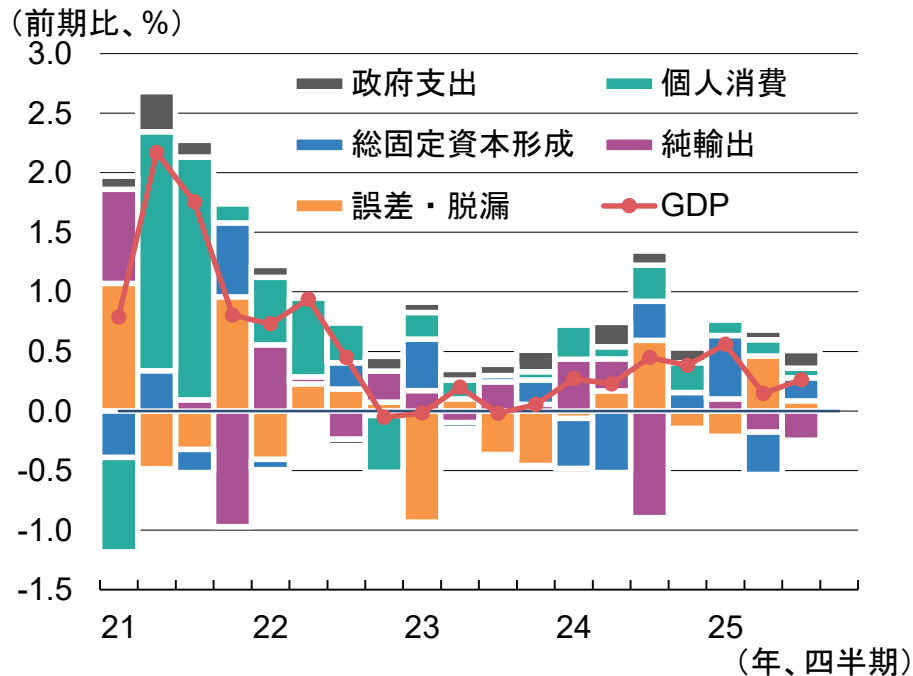
調査部 主任研究員

土田 陽介

ユーロ圏景気概況① 景気は拡大している

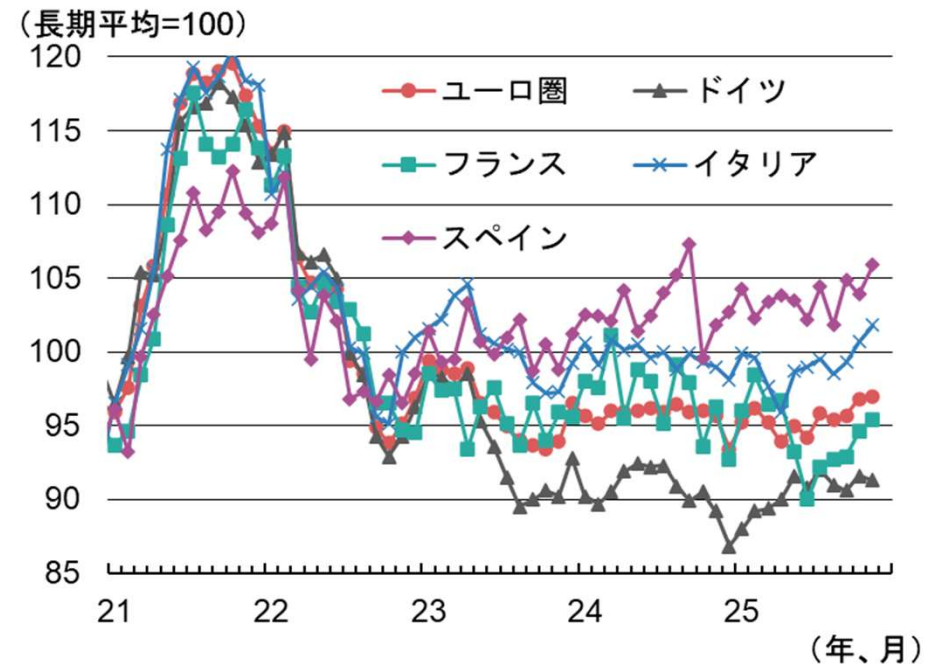
ユーロ圏の2025年7-9月期の実質GDP(確定値)は前期比+0.3%と、4-6月期(同+0.1%)から増勢が加速した。国別にはスペイン(同+0.6%)とフランス(同+0.5%)が堅調を維持したほか、イタリアが再びプラス(同+0.1%)に転じ、ドイツが同横ばいとマイナス成長を脱した。一方で、最新11月の景況感指数は97.0と3カ月連続で上昇した。

実質GDP



(出所) 欧州連合統計局(ユーロスタット)

景況感指数

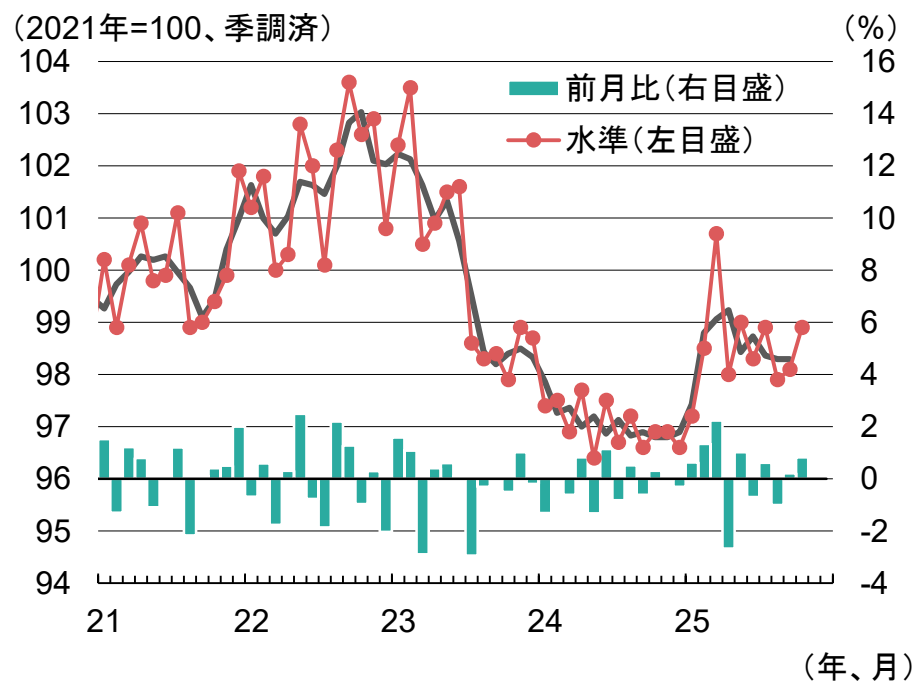


(出所) 欧州委員会ECFIN

ユーロ圏景気概況② 生産は横ばい

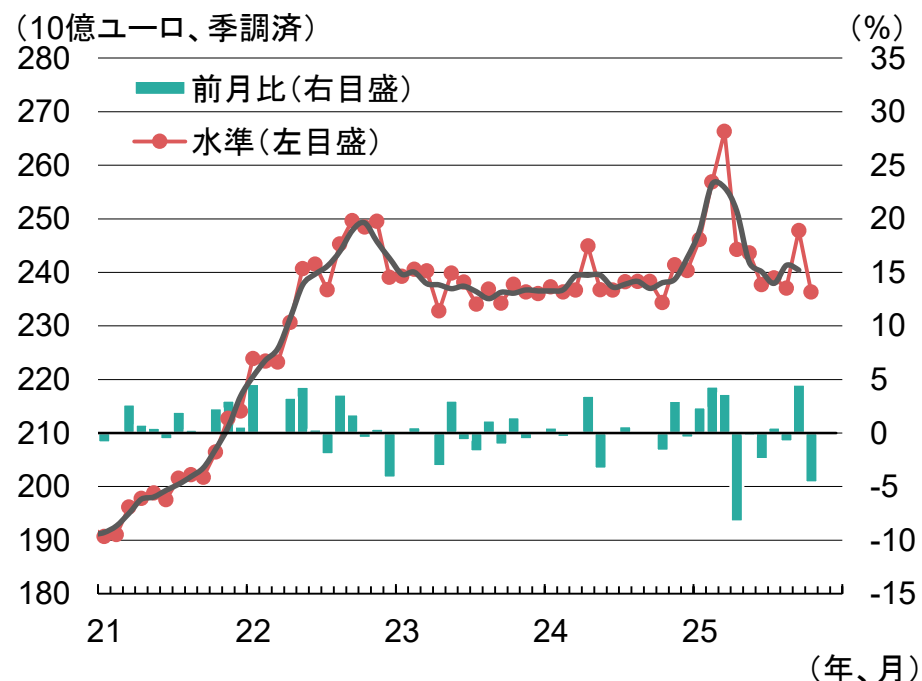
ユーロ圏の2025年10月の鉱工業生産は前月比+0.8%と2カ月連続で増加したが、均した動きは横ばいにとどまった。一方、同月の名目輸出は同▲4.6%と前月(同+4.5%)から反落し、均した動きも横ばいとなった。

鉱工業生産



(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) ユーロスタット

名目輸出

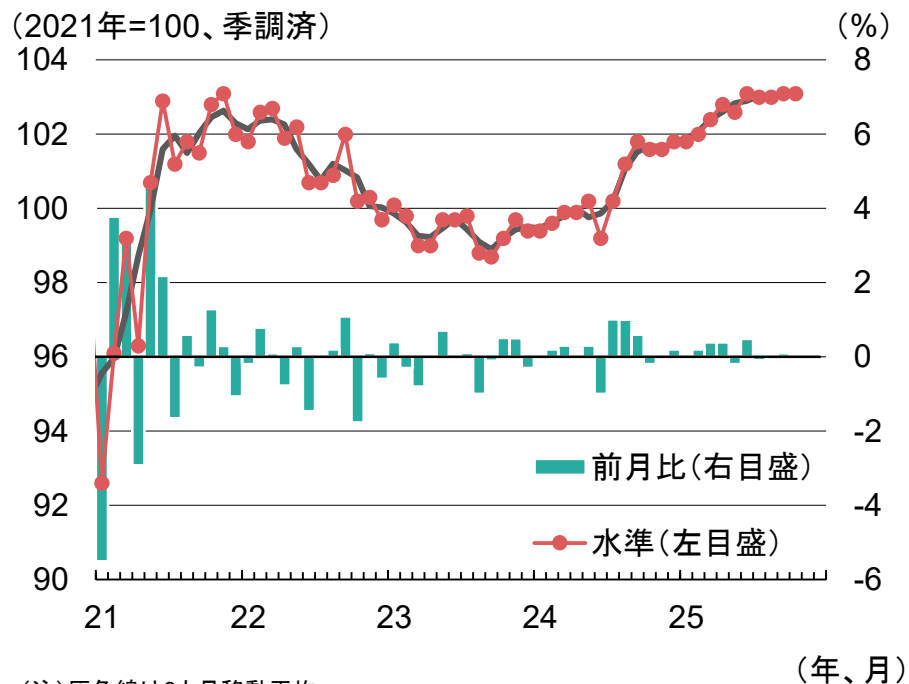


(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) ユーロスタット

ユーロ圏景気概況③ 消費は頭打ち

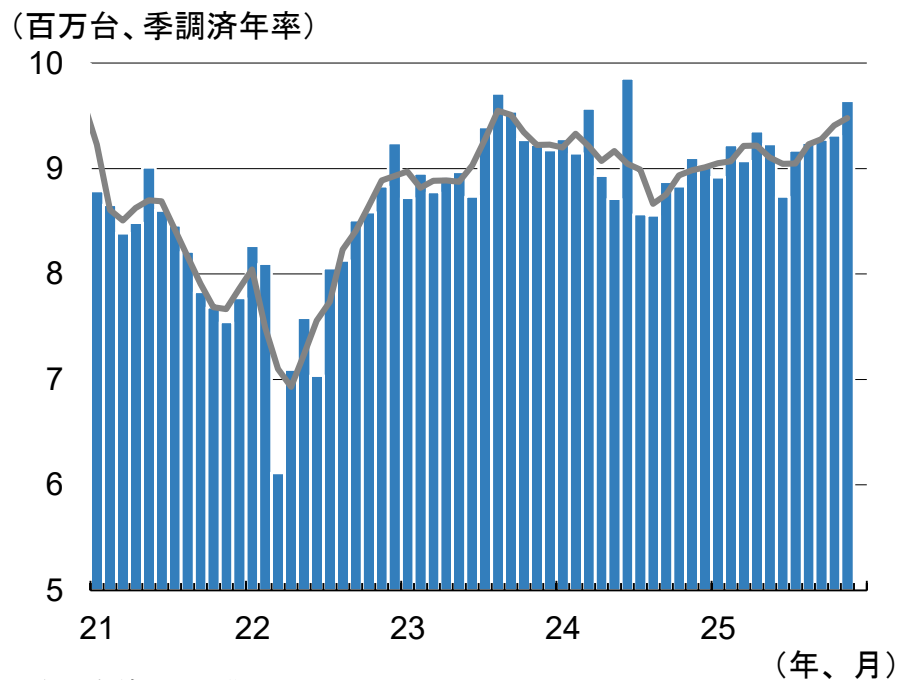
ユーロ圏の2025年10月の小売数量は前月比横ばいとなり、均した動きは頭打ちとなった。一方で、翌11月の新車販売台数は前月比+3.5%の年率964万台と5カ月連続で増加し、均した動きは上向きを維持した。

小売数量



(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) ユーロスタット

新車販売台数

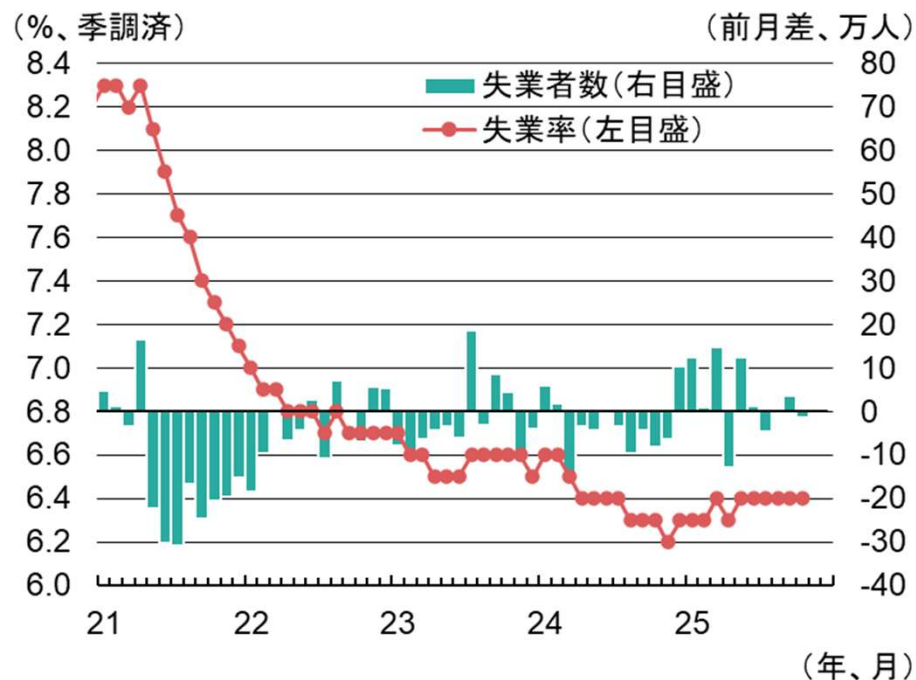


(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) 欧州中央銀行 (ECB)

ユーロ圏景気概況④ 雇用は完全雇用の状態

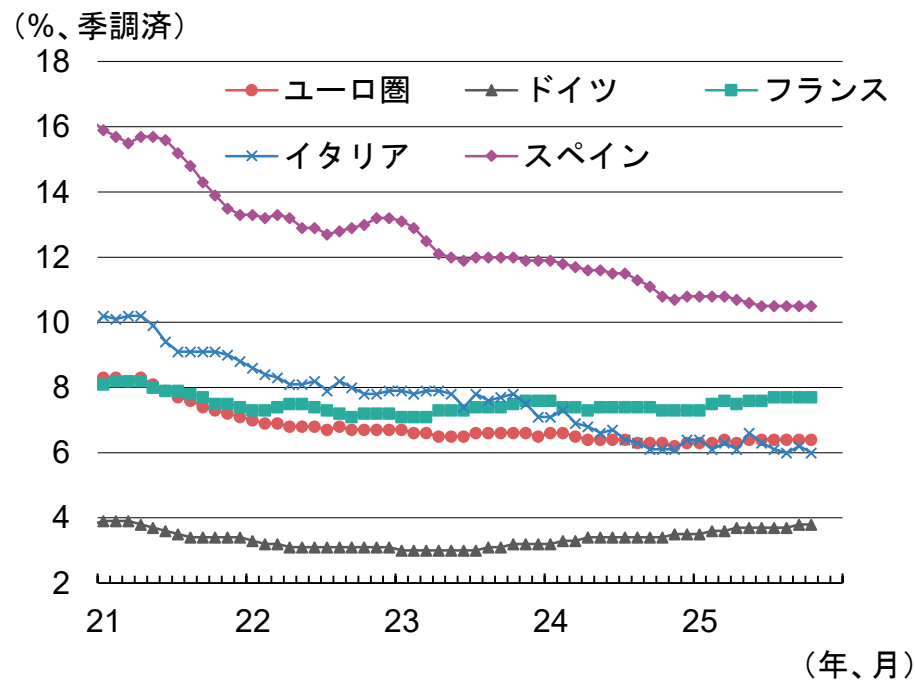
ユーロ圏の2025年10月の雇用統計では、失業率が6.4%と6カ月連続で横ばいとなった。一方、同月の失業者数は前月差1.3万人減と3カ月ぶりに減少したが、雇用は完全雇用の状態であるもよう。失業率を主要国別に確認すると、スペインが低下基調、イタリアが横ばい圏、ドイツとフランスが上昇基調での推移となった。

失業率と失業者数



(出所) ユーロスタット

主要国別失業率

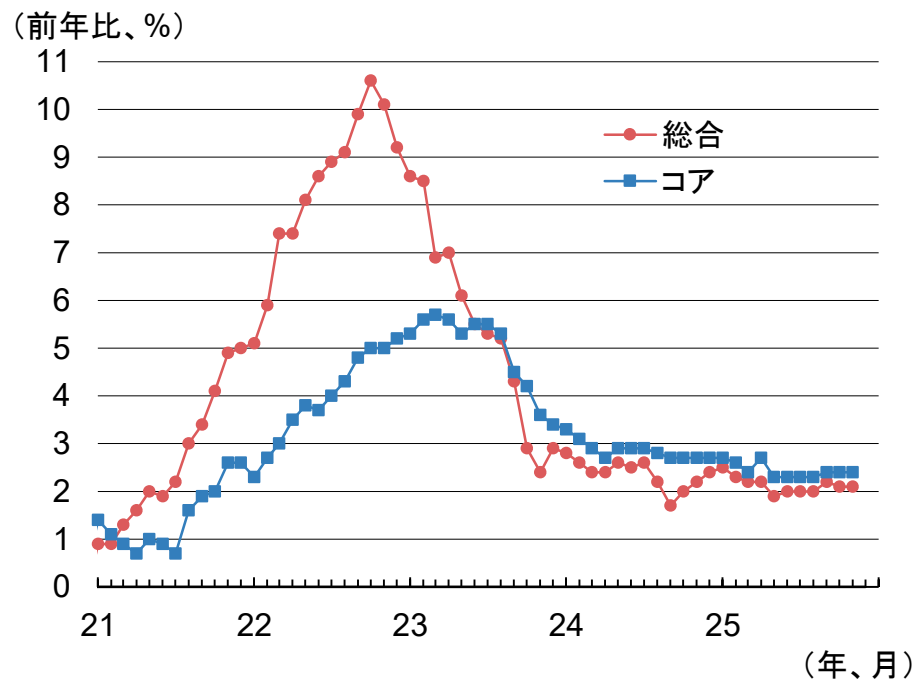


(出所) ユーロスタット

ユーロ圏景気概況⑤ インフレは安定している

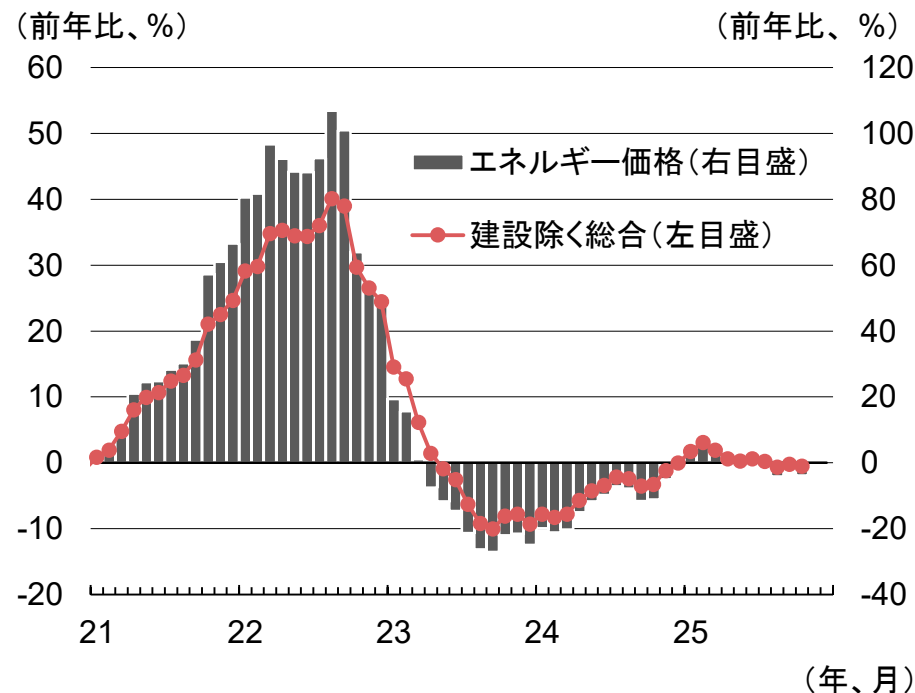
ユーロ圏の2025年11月の消費者物価は総合ベースで前年比+2.1%に、また変動が激しい項目を除いたコアベースは同+2.4%にとどまり、インフレは安定していると判断される。一方、生産者物価（建設除く総合）は10月時点で同▲0.5%と、3カ月連続で前年割れとなった。

消費者物価



(出所) ユーロスタット

生産者物価

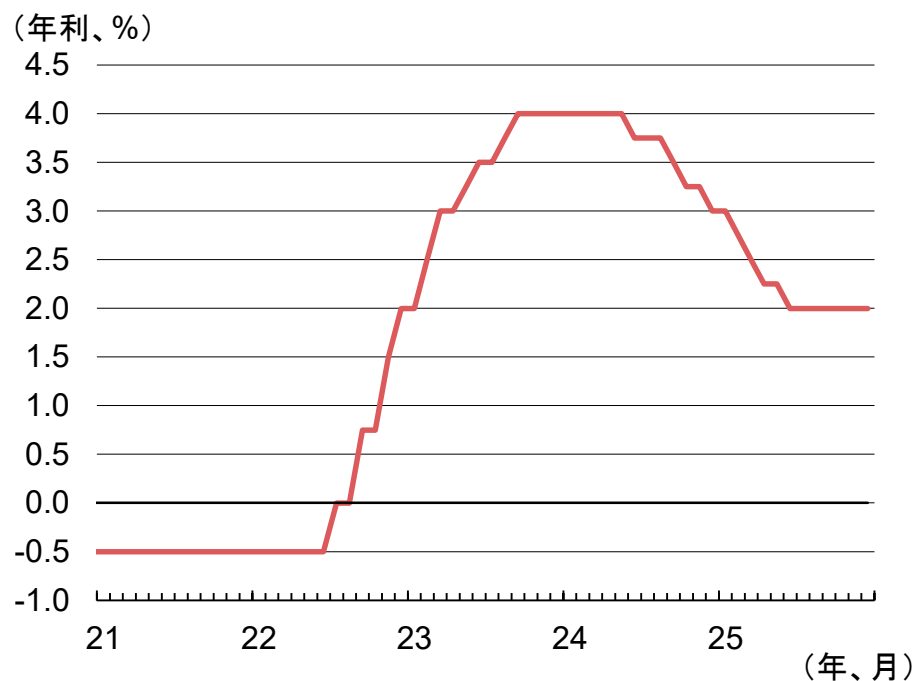


(出所) ユーロスタット

ユーロ圏景気概況⑥ ECBは12月理事会で金利を据え置き

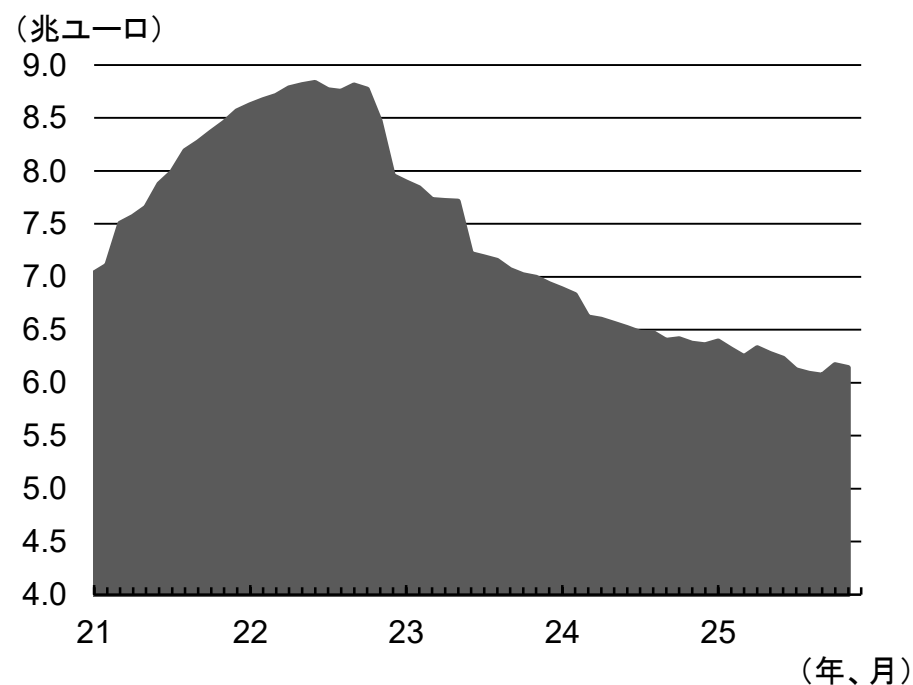
欧州中央銀行(ECB)は2025年12月18日に政策理事会の結果を公表し、インフレが安定していることから、政策金利(預金ファシリティ金利)を年2%で据え置くと発表した。年明け最初の理事会の結果は2026年2月5日に公表される予定だが、インフレの安定を受けて、政策金利は据え置かれる見込み。

政策金利(預金ファシリティ金利)



(出所) ECB

ユーロシステムのバランスシート

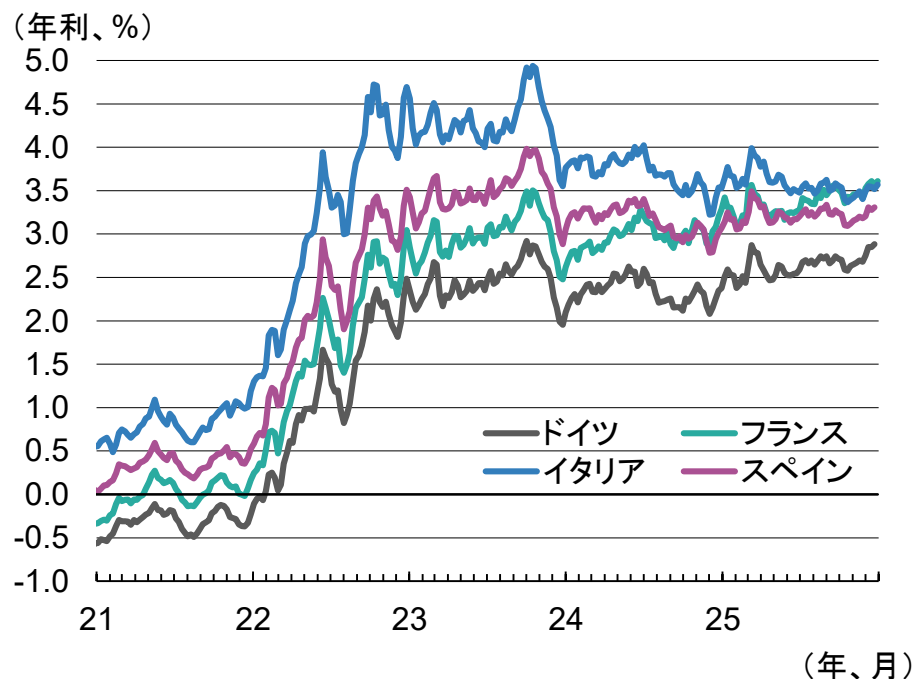


(出所) ECB

ユーロ圏景気概況⑦ 金利は上昇、株価は上昇

ユーロ圏主要国の2025年12月の長期金利は上昇した。域内財政の悪化懸念の高まりやECBの金利据え置きなどを受けて金利が上昇した。一方、ユーロ圏主要国の同月の株価は上昇した。米連銀(FRB)の利下げによる米株高や企業業績への期待が株価を押し上げた。

10年国債流通利回り



(出所) 各国中銀

株価(Eurostoxx50)



(出所) STOXX

ユーロ圏景気概況⑧ ユーロは対ドル・対円で上昇

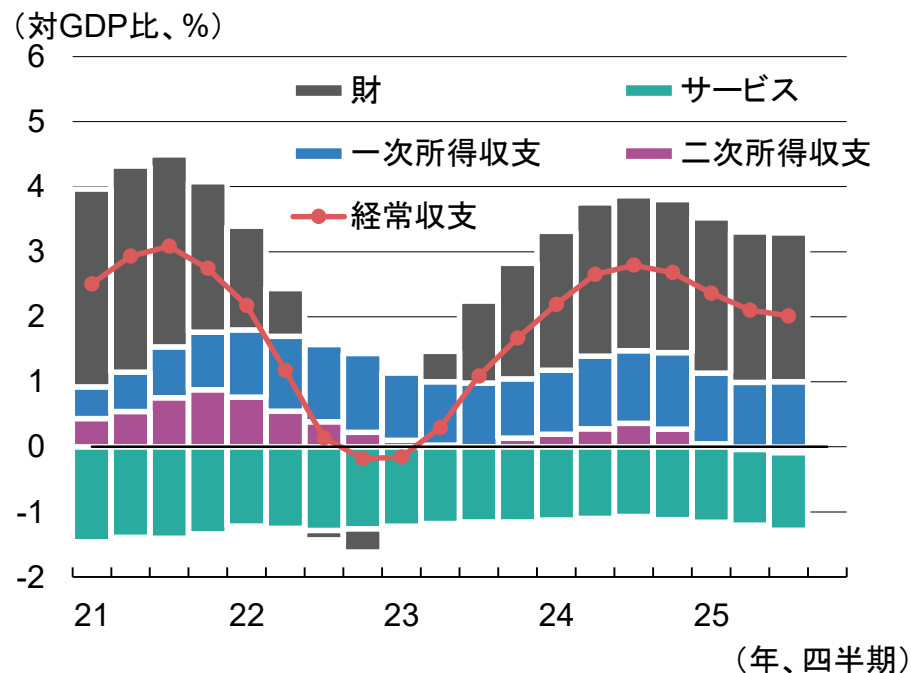
EUの通貨ユーロの2025年12月の相場は対ドル・対円で上昇した。対ドルでは、ECBの金利据え置きとFRBの追加利下げを受けてユーロ高ドル安となった。対円では、日本政府の財政拡張が嫌気されてユーロ高円安が加速した。経常収支は、財収支(貿易)黒字が高止まりしており、実需面からのユーロ買い圧力は安定している。

ユーロ相場



(出所) ECB

経常収支



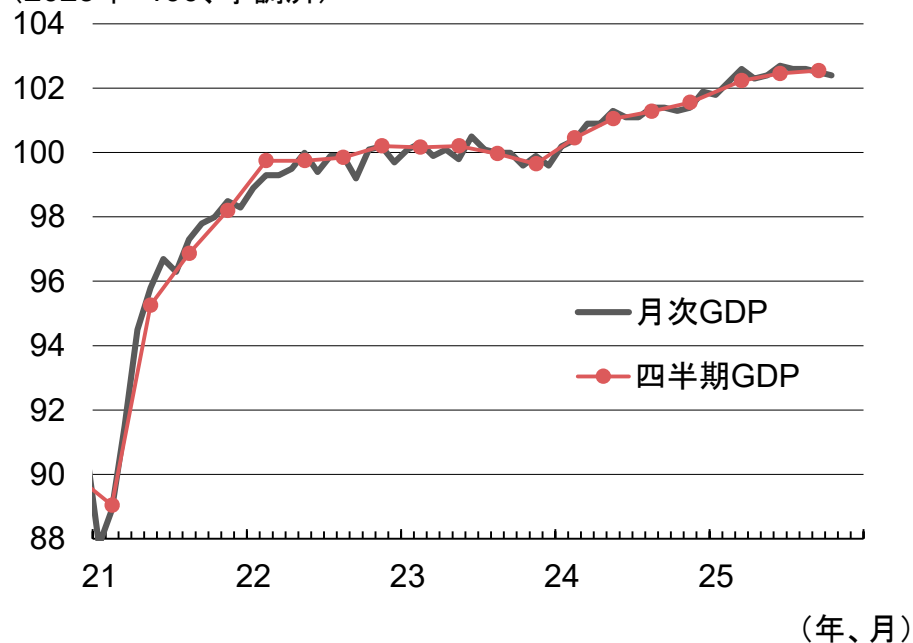
(出所) ECB、ユーロスタット

英国景気概況① 景気は減速している

英国の2025年7-9月期の実質GDP(確報値)は前期比+0.1%と、2四半期連続で増勢が鈍化した。主要な需要項目別には、個人消費、総固定資本形成、輸出が全てプラス寄与となった反面で、在庫や誤差がマイナス寄与となった。一方、最新10月の月次GDPは前月比▲0.1%と2カ月連続で減少した。

実質GDP

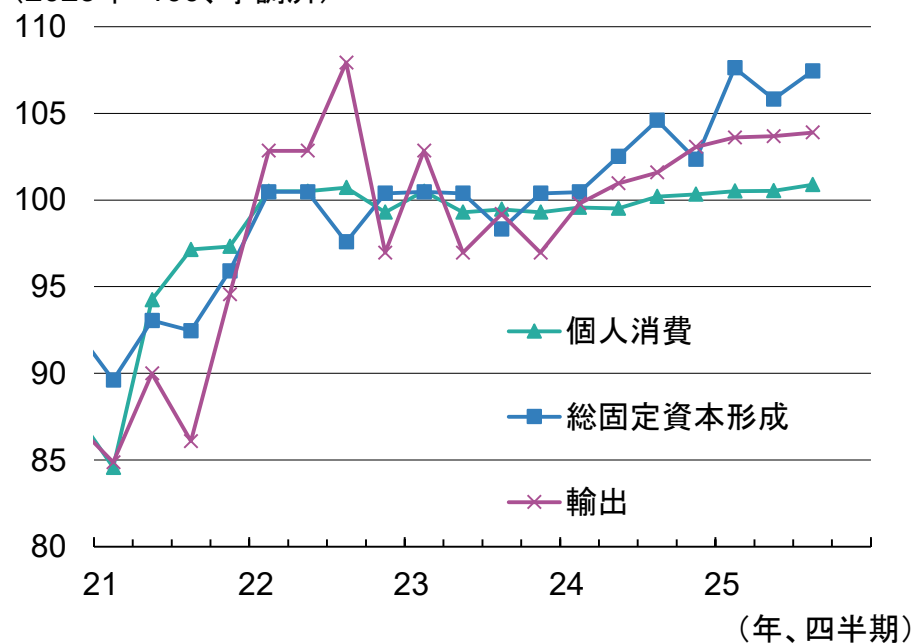
(2023年=100、季調済)



(出所) 英国立統計局 (ONS)

主要な需要項目

(2023年=100、季調済)

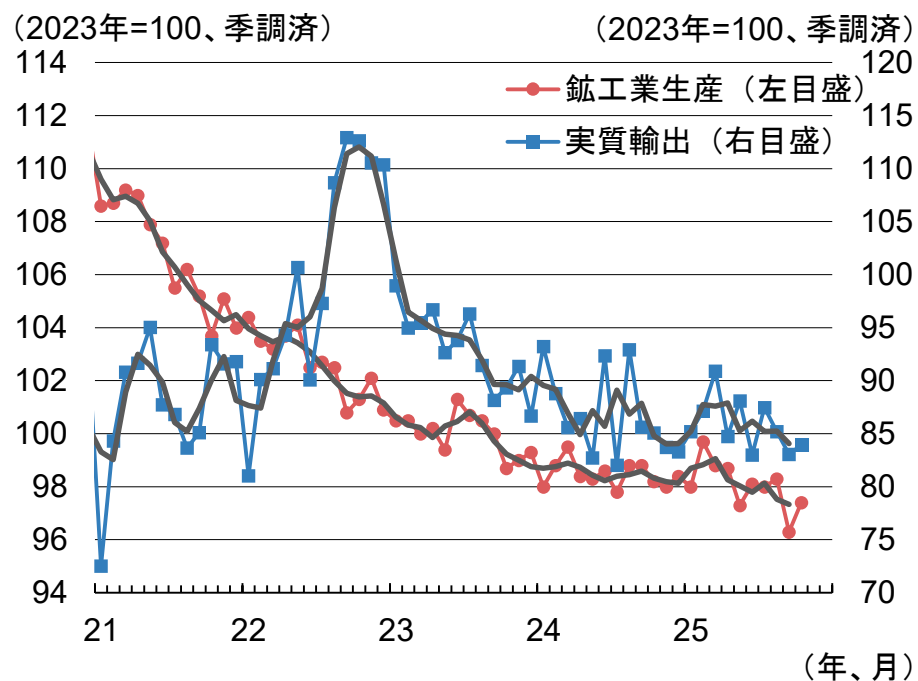


(出所) ONS

英国景気概況② 生産は減少している

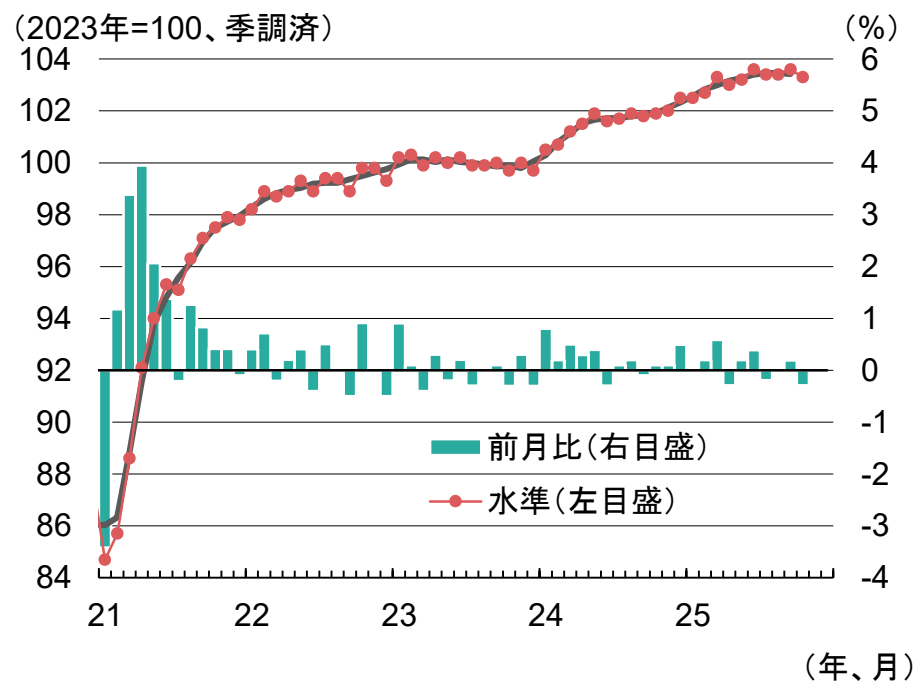
英国の2025年10月の鉱工業生産は前月比+1.1%と増加に転じたが、均した動きは下向きのままである。また同月の実質輸出は同+1.0%と再び増加したが、均した動きは下向きのままである。他方、10月のサービス業生産は前月比▲0.3%と減少に転じ、均した動きは頭打ちとなった。

製造業生産と実質輸出



(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) ONS

サービス業生産

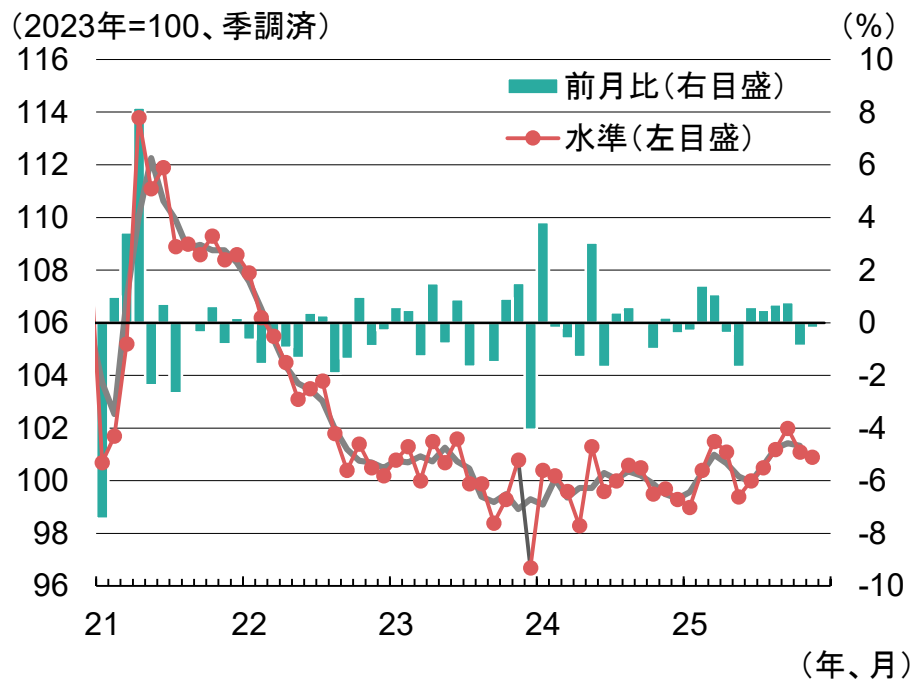


(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) ONS

英国景気概況③ 消費は低迷している

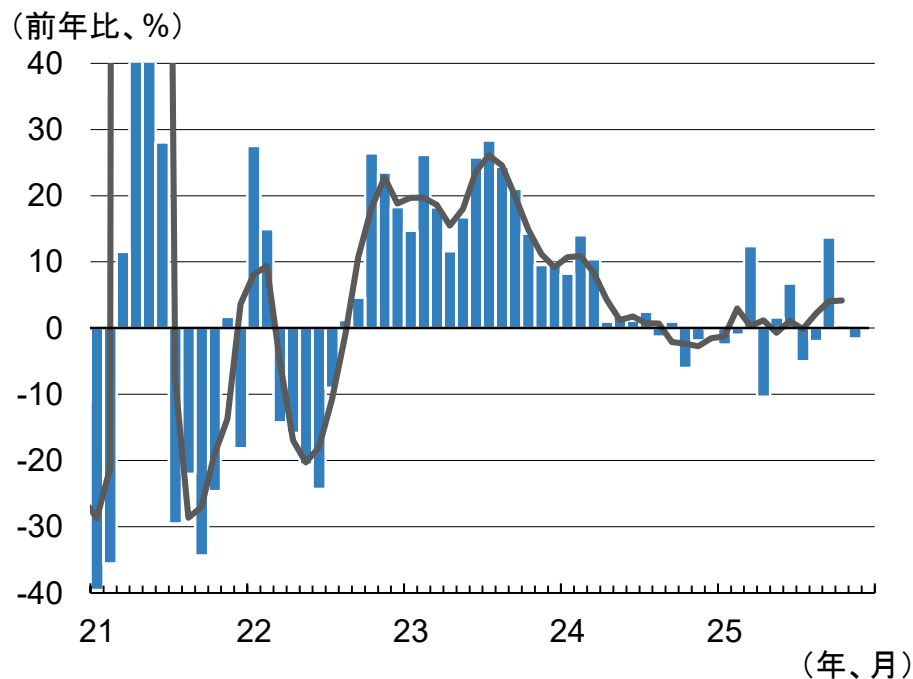
英国の2025年11月の小売数量(除く石油)は前月比▲0.2%と減少が続き、均した動きも横ばいとなった。一方、同月の新車販売台数(乗用車)は前年比▲1.6%と同年8月以来の前年割れとなったが、均した動きは増勢を維持した。また新車市場の規模は年率200万台レベルまで回復した。

小売数量



(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) ONS

新車販売台数(乗用車)

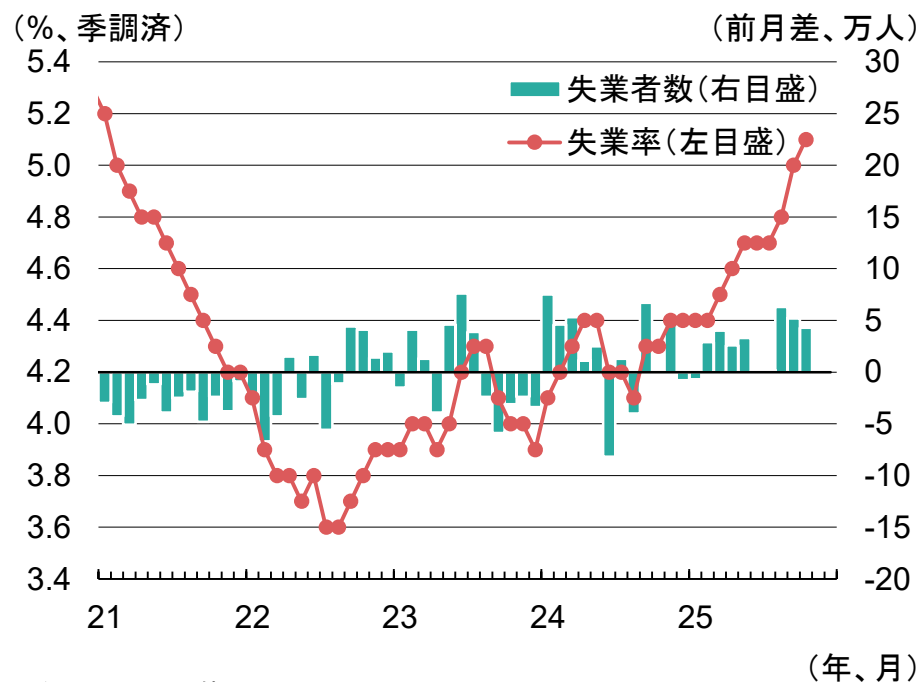


(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) 英国自動車工業会 (SMMT)

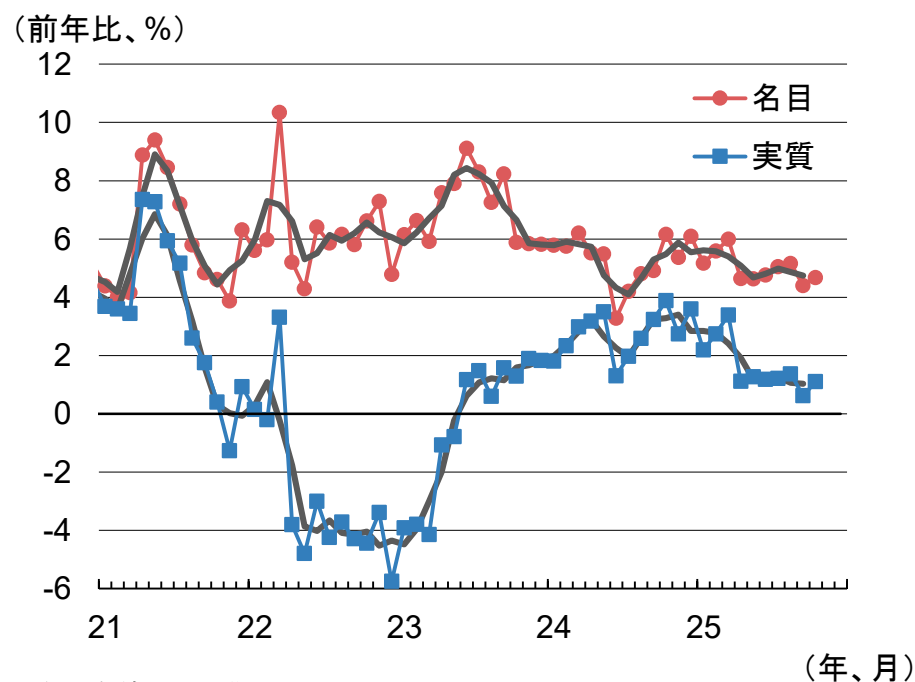
英国景気概況④ 雇用は悪化している

英国の2025年10月の雇用統計では、失業率(8-10月期平均)が5.1%と3カ月連続で上昇した。加えて、失業者数も前月差4.3万人増と増加が続き、雇用は悪化した。一方、賃金の増勢は減速しており、消費者物価で実質化したベースだと前年水準近傍まで落ち着いた。

失業率



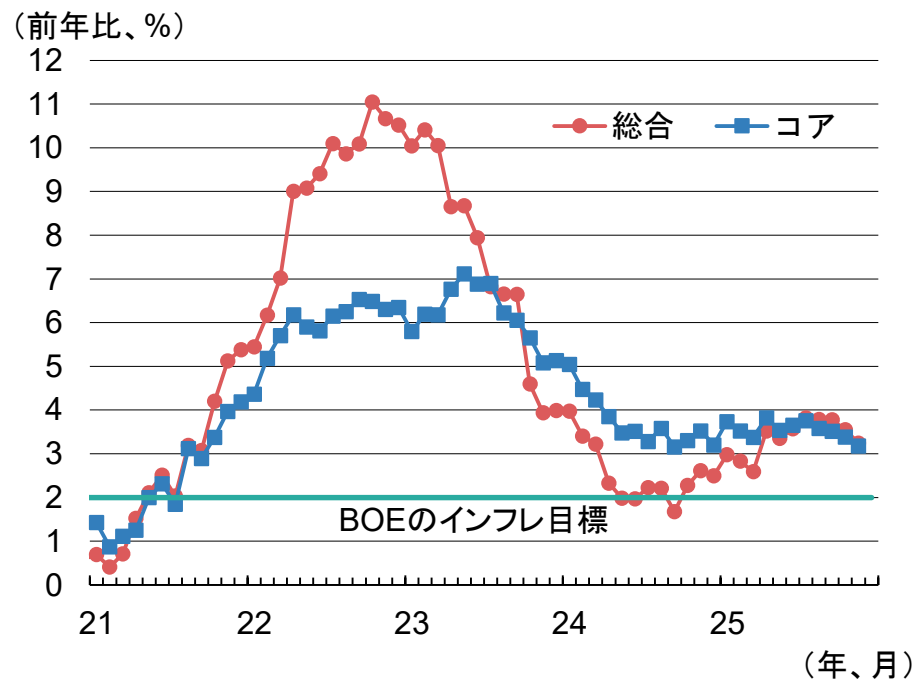
平均賃金(週給)



英国景気概況⑤ インフレは高止まりしている

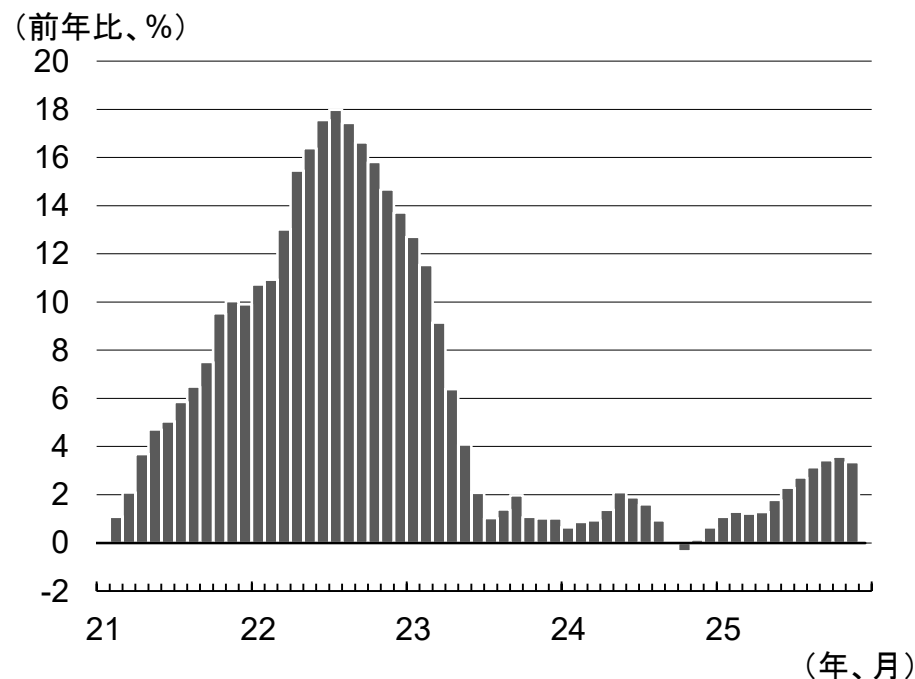
英国の2025年11月の消費者物価は、総合ベースと変動が激しい項目を除いたコアベースがともに前年比+3.2%と、いずれも伸びは前月から減速したが、依然として高水準だった。また同月の生産者物価(産出ベース)も同+3.4%と伸びが8カ月ぶりに減速したが、依然として高水準であり、先行きのインフレ再加速の可能性を物語る。

消費者物価



(出所)ONS

生産者物価(産出ベース)

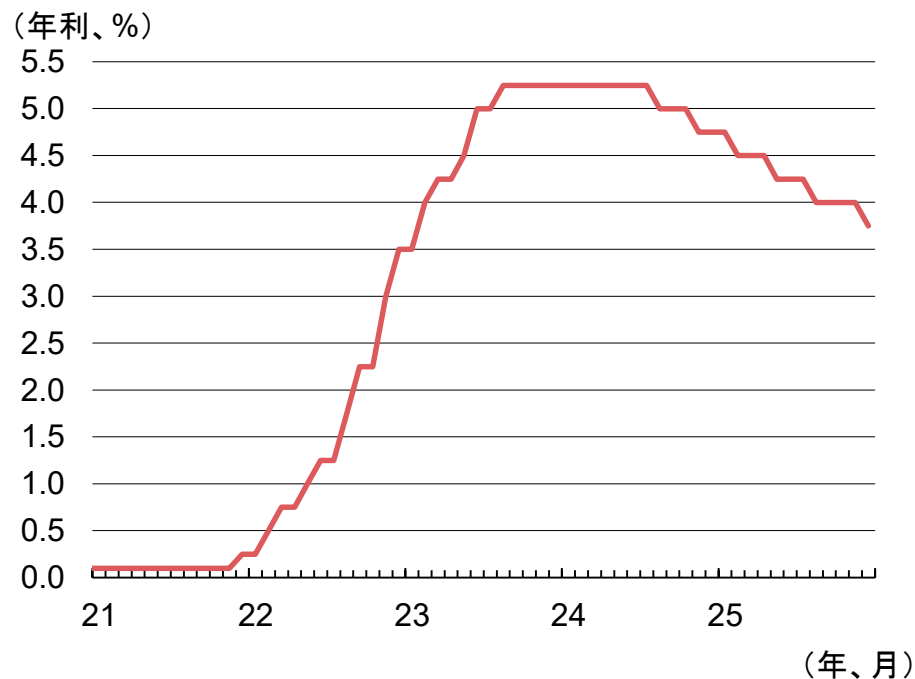


(出所)ONS

英国景気概況⑥ BOEは12月委員会で金利を引き下げ

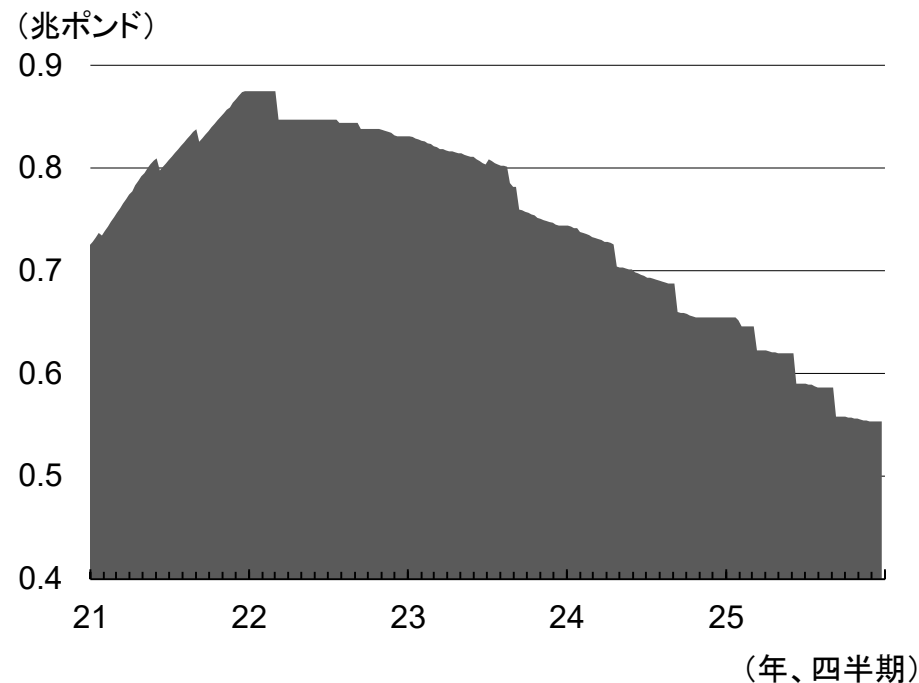
イングランド銀行(BOE)は2025年12月18日に金融政策委員会(MPC)の結果を公表し、政策金利であるバンクレートを0.25%引き下げ、年3.75%にした。インフレは依然として高止まりしているため、BOEは追加利下げには慎重に臨むと考えられる。年明け最初のMPCの結果は2026年2月5日に公表される。

政策金利(バンクレート)



(出所)イングランド銀行(BOE)

BOEの国債保有高

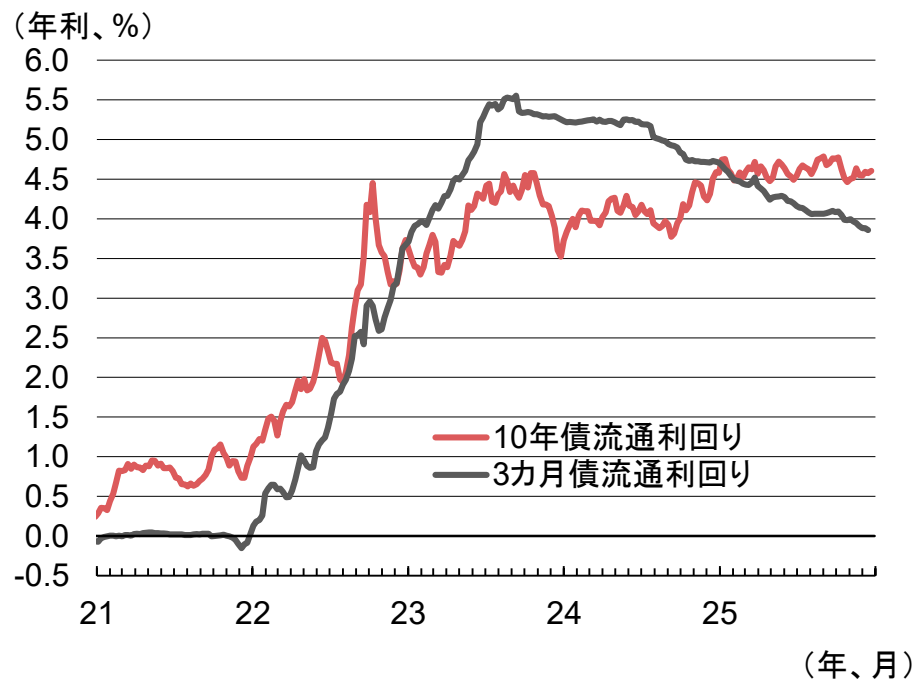


(出所)BOE

英国景気概況⑦ 金利は上昇、株価は上昇

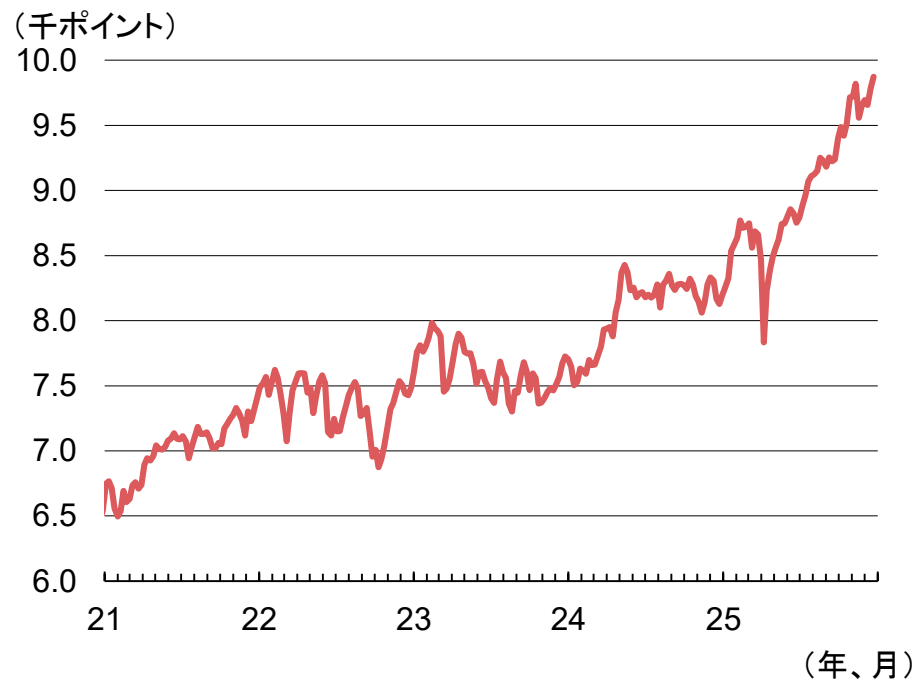
英国の2025年12月の長期金利は上昇した。英国並びにEU諸国の悪化懸念の高まりを受けて金利は上昇した。一方、英国の同月の株価は上昇した。FRBの利下げによる米株高や企業業績への期待が株価を押し上げた。

長短金利(10年債と3カ月債)



(出所) BOE

株価 (FT30指数)

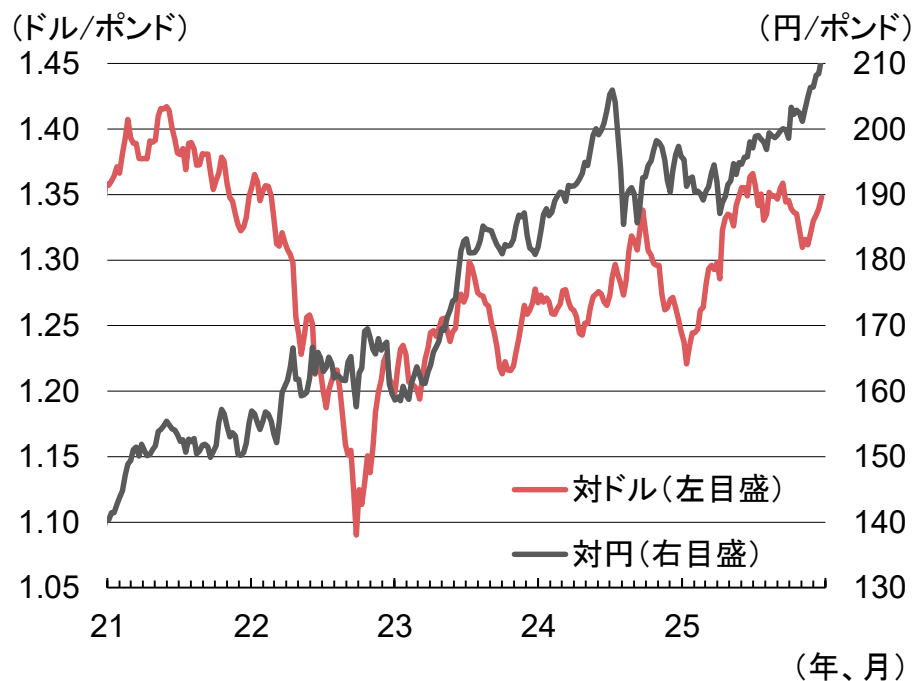


(出所) Financial Times

英国景気概況⑧ ポンドは対ドル・対円で上昇

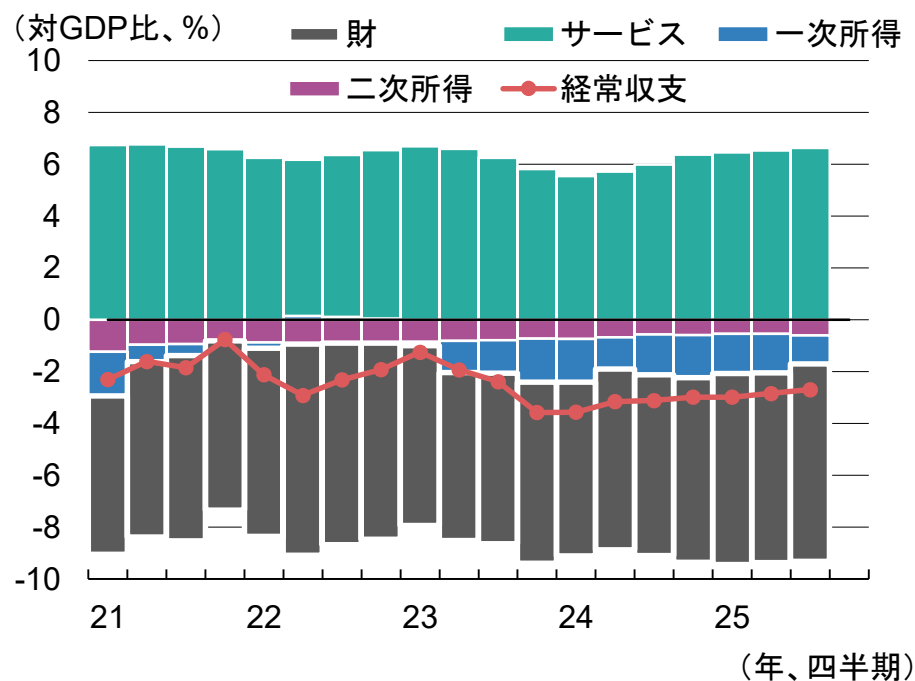
英国の通貨ポンドの2025年12月の相場は対ドル・対円で上昇した。対ドルでは、FRBの利下げやユーロ高の流れを受けてポンド高ドル安が進んだ。一方、対円では、日本政府の財政拡張が嫌気されてポンド高円安が加速した。経常収支は、名目GDPの2%を超える赤字が定着しており、実需面からのポンド買い圧力は弱い。

ポンド相場



(出所)BOE

経常収支



(出所)BOE、ONS

ご利用に際して

- 本資料は、執筆時点で信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客さまの決定、行為、およびその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客さまご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず、出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。

(お問い合わせ)

調査・開発本部 調査部 土田陽介

TEL: 03-6733-1628 E-mail: chosa-report@murc.jp

〒105-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー